

6月22日オンライン記者会見

ラクス・メディア・コレクティブからのビデオ・メッセージ（日本語訳）

【J】 ジーベシュ・バグチ

【M】 モニカ・ナルラ

【S】 シュッダブラダ・セーングプタ

【J】 こんにちは、みなさん。ラクス・メディア・コレクティブのジーベシュです。そして、シュッダとモニカです。

私たちは、本来、記者会見の会場に出向き、どのようにヨコハマトリエンナーレ 2020 を形にし、また、それが世界に何をもたらすのかということを通じて直接お伝えするはずでした。幸い、昨年 11 月にパフォーマンスとレクチャーのイベント、「エピソード 00 ソースの共有」で、『ソースブック』という、私たちの考えのもととなる 5 つのテキストをまとめた小冊子を発表した際に、大勢のプレスの方にお目にかかることができました。そのときにお会いしているわけですから、私たちがヴァーチャルだけの存在ではない、ということも理解されていると思います！

【S】 残念ながら、私たちは今、移動することができません。お互いに物理的に離れざるを得なくなってしまったこの時期に、コンセプトを深めるために選んだ「ソース（source、源泉の意味）」という 5 つのテキストにもう一度立ち戻り、ソースにある考え方がアーティストたちの作品づくりによって押し広げられ、発展していることを確認することができました。

【M】 ヨコハマトリエンナーレ 2020 「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」は一つの「場」であり、回転しながら流れていく時間を指しています。

ヨコハマトリエンナーレ 2020 では、世界各地よりアーティストを迎え、作品を展示します。第 7 回となる今回のトリエンナーレほど、世界の多様な潮流を真正面から受け入れたものはないでしょう。11 月に「エピソード 00」を行った際に、何名かの参加アーティストと「討議的正義の熟考（Deliberation on Discursive Justice）」のために結成された若手のキュレーター、アーキビスト、アーティスト 3 名によるチームをご紹介します。本日は、このトリエンナーレに参加するアーティストたちが、生きること、そして生命とどのようにかわるのかをお話します。

つい最近、日本のウェブメディア「アーツスケープ」のインタビューを受けたのですが、インタビューを受けながら、『ソースブック』から出発したアイデアが、ここにきて極めて火急なことだということに気がつきました——毒性やケア（いたわり）、あるいは友情の中にある輝き、友だちをいたわること、明滅する光、そして自ら学ぶことによって教える師が不在でも意識が芽生えることなどについて。日本を含む世界各地から一時的に集まってきたアーティストの小さな集団が、あたかも崩れ落ちながら未知の領域へと向かっていく世界

全体を再考するためのセンソリウム（知覚の装置）と計画を準備していたかのように、ヨコハマトリエンナーレ 2020 は現在の状況に先鞭をつけることになりました。幸い、私たちはみなさんの期待を裏切ることはないだろうと思っています。トリエンナーレを通して、発光に守られて世界が回復していく可能性についてみなさんに示したいと考えています。そのため、向かうべき方向を懸命に探し求め、また、新しく世界を捉え直し、想像し直すために迂回する様子を明らかにしていきます。

この展覧会では、「内」と「外」を固定する境界線を崩していきます。そして、凝り固まった知覚の領域に変化をもたらすべく、広く、誰もが同じ立場で作品を鑑賞する体験へとみなさんをお誘いします。ものの命を通して、驚きと思索へと向かう展開は、抑圧された歴史に目を向けることでもあります。アーティストは、ものの原型を壊してそこに新しい命を吹き込み、新たな形を作り出す力を与えながら、意表をつくような外皮に覆われた状態でものを出現させます。そして、失われたかけらを使って魅惑的な風景を作り、教訓を探し出し、内にある異質なものを認める寛容さを身につける、そんな古来のものとの対話を可能にします。

この展覧会は異なる規模の動作が連なるように企画されています。それは、人類（種）、風景、エコロジー、地政学的揺らぎとしての人の歴史、親密さの描写、それから、時折、人間の居住と非人間（non-human）のそれとを混同してしまうような動きなのです。

これらすべての状況を踏まえて、トリエンナーレは、あらゆる身振りや感情、そして、いたわるためのケアのテクネに注意深く目を向けます。

【J】 2019年に私たちが制作した「AFTERGLOW—光の破片をつかまる」のための『ソースブック』の中で、みなさんと共有した目くるめく驚きを、この場であらためて感じてもらいたいと願っています。

【S】 生命、宇宙、世界、そして日々の時間は、数えきれないほどの行為を通じて、分解・再構成され、発光に守られて徐々に再建されていく。短い間の傷も、時間の有毒なかけらが放つ残光（afterglow）の中で回復していく。生命とは発光する独学者なのである。

【M】 さあ、「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」へようこそ。